

第 6 回学会報告記 (APHRS 2014 in India)

平成 23 年卒、医師 4 年目、後期レジデント 2 年目の須永です。今回は APHRS (Asia Pacific Heart Rhythm Society) という不整脈関連の国際学会に参加させていただいたので、そのことについてご報告させていただきます。

APHRS はアジアと環太平洋の地域の国の学会で、毎年持ち回りで開催国が変わるのですが、去年は香港で、今年はなんとインドでした。私の演題が口頭発表で採択されたため、国際学会にて初の口頭発表となったことで、昂揚する気持ちがありましたが、インドという国に滞在することについても不安を感じながらの学会参加でした。

ニューデリーまでは、バンコクで乗り換えの待ち時間が 5 時間、飛行時間が合計 11 時間と長旅でした。



タイエアウェイに乗って関空から約 7 時間かけて一旦バンコクへ。



上司の増田と神田と私の 3 人での参加です。トランジットに 5 時間もありませんでしたが、皆さん論文の作成など
普段溜まっている仕事を粛々と行っておりました。そしてまた、約 4 時間かけてニューデリーへ。



ニューデリーに到着しました。まずは空港から市街地まで観光客を乗せていこうとするタクシーの運転手の声
かけの多さと、砂塵と排気ガスで霧のように曇っている空気にびっくりしました。ホテルの送迎は予約していま
したので、何のトラブルもなくホテルまで到着しました。

神田先生のポスター

いよいよ学会です。学会会場のホテルに宿泊していたので、移動に困ることはありませんでした。まずは神田のポスター発表です。優しいインド人がポスター貼りを手伝ってくれました。



そして私の口頭発表です。英語が得意ではないので、質問が聞き取れなかったらどうしたらよいかなどの不安はありました。発表自体は練習したとおりに話すことができ問題なく終わりました。いざ質疑応答ですが、インド人の座長の方にするどい質問をされました。聞き取れはしましたが、日本語で質問されてもなかなか返答に困る、study の大きな limitation に関する質問でした。あいまいな返答になりましたが、何とか discussion できて、無事に発表は終了しました。英語云々の前に医学に関してもまだまだ勉強が必要だと痛感いたしました。



発表お疲れ様ということで、みんなで本場のカレーを食べました。私にとってはややスパイシーでしたが、とてもおいしかったです。ちなみにインドの水は飲んだらおなかを壊すとのことで水も氷も細心の注意を払って食事していました。最終的に私だけおなかを壊しました。

増田先生のポスター

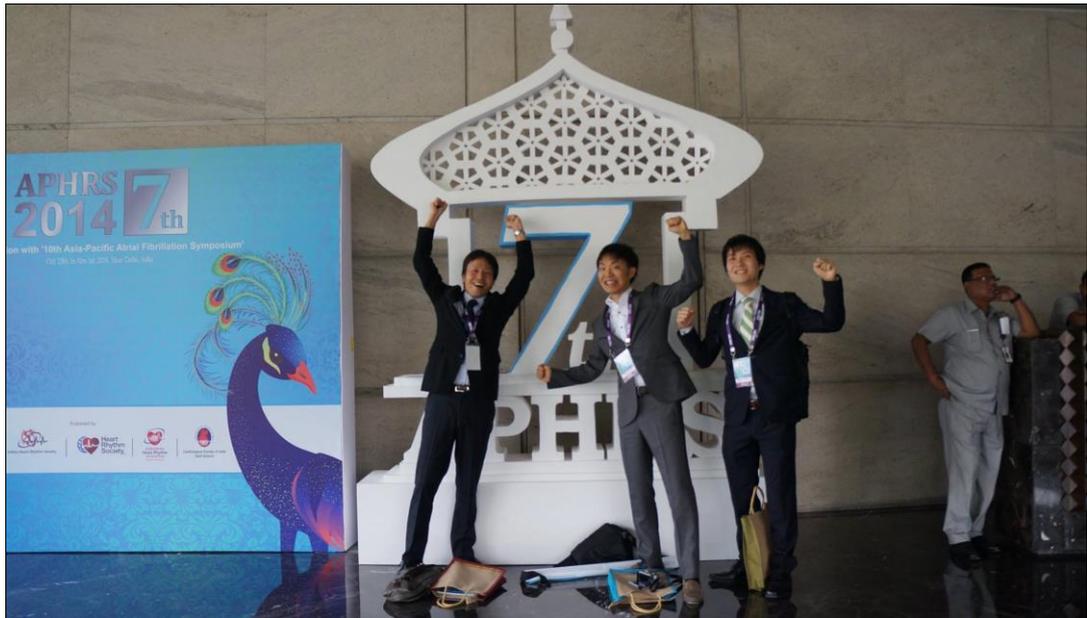
増田のポスター発表です。まわりを見渡すと、日本の発表も多いのですが、韓国、中国などの発表数の多さが目立ちました。



どこの国も不整脈部門の需要は増えてきているし、新しい技術やデバイスもどんどん開発されているということを再認識いたしました。やはり不整脈部門は将来性があり、自分に治療結果が帰ってくるという意味でもすごく興味深い分野だと思います。



最終日に飛行機の便が夜出発であったため、せっかくのインドとのことで、白亜の大宮殿タージマハルに観光してきました。私自身は旅行が好きで学生の頃に、ヨーロッパ、南米などいろいろなところに旅行してきましたが、人工の建築物としてはタージマハルが世界一だと思いました。余談ですが、自然のものですとポリビアのウユニの塩湖が一番だと思います。



夜間の移動ということもあり、帰りの飛行機は3人とも熟睡していました。約15時間の移動を終えて、日本に到着いたしました。今回の学会の経験を糧にこれからも診療と研究とに励んでいきたいと思ひます。